

告示	番号	55	慢性心疾患
	疾病名	僧帽弁弁上輪	

## 僧帽弁弁上輪

そうぼうべんべんじょうりん

### 概念・定義

僧帽弁輪直上の心房側に起始する膜用の隆起物が全周性に僧帽弁を覆い、様々な程度の狭窄症状を引き起こす先天性心疾患である。この膜様物は左心耳よりも僧帽弁側にある。単独で発症することもあり、大動脈縮窄などの他の先天性心疾患に合併することもある。有意な狭窄で、肺うっ血や肺高血圧をきたす例では、治療が必要である。

### 症状

合併する先天性心疾患により症状は様々である。左房から左室への流入障害により左房圧が上昇し、肺うっ血をきたす。進行すると肺水腫、肺高血圧となり、低心拍出症状が出現する。心拍数の増加により拡張時間が短縮するため、労作時に症状は強くなり労作時呼吸困難をきたす。また乳児期には繰り返す呼吸器感染、体重増加不良などを呈することもある

### 治療

有意な狭窄、すなわち内科治療が必要である症例では、手術で膜様隆起物の切除が行われる

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/4\\_63\\_94.html](http://www.shouman.jp/details/4_63_94.html)